

## 平成28年度 大阪市社会教育委員会議 第4回全体会 議事録

1 日 時 平成29年2月6日(月) 10時～12時

2 場 所 大阪市役所

3 出席者

(委員)

北野委員・木戸委員・小林委員・立田委員・久委員

平井委員・吉岡委員

(教育委員会事務局・区役所)

山本教育長、松本生涯学習部長兼市立中央図書館長、

松下利用サービス担当課長、松村生涯学習担当課長、植木文化財保護課長

向生涯学習担当課長代理、玉置社会教育施設担当課長代理

今西区役所人権生涯学習主管課長会代表

(こども青少年局)

杉谷青少年課長

(経済戦略局)

橋本文化課長

4 議事概要

(1) 開 会

(2) あいさつ

(3) 出席委員・出席関係職員紹介

(4) 議 案

第3次「生涯学習大阪計画」(修正案)について

5 議事要旨

事務局から、各議題について報告し、確認された。

[主な意見等について]

(第3次「生涯学習大阪計画」(修正案)について)

**【久議長】**

それではまず、この修正案に関しまして、意見交換をさせていただこうと思います。質問でもご意見でも結構ですが、いかがでしょうか。

**【立田委員】**

図の表記について、番号やキャプションをきちんと入れることと、学びの循環やつながりをイメージする図を入れていただきたいと思います。あと、成果指標について、目標値を本文中にも入れてください。

**【吉岡委員】**

パブリックコメントで、市民の方から、虐待の防止や親の教育に力を入れるべきじゃないかというご指摘があって、これは全くそのとおりだと思います。我々も、児童虐待の防止ということは大きなテーマで、少しでもなくそうということをいろいろ考えているだけに、いい指摘だなと思います。タイトルにある「横断的な」という言葉が、何を横断するかが分からないので、例えば部局横断的とか組織横断的とかいう言葉が前にあった方がイメージできるんじゃないでしょうか。

**【立田委員】**

今のご意見に加えてですけど、「横断的な」と言ったときに、児童虐待の問題については、おそらく学校と警察と、それから病院等がかかわってくるというふうに思います。もっと具体的にそういうことを書いていただくほうよいのではないのでしょうか。

**【北野委員】**

今の意見に関連してですが、例えば子どもを中心として、保健・医療・福祉・教育の部局が支援の連携をして、虐待を防止するというところで、もっと具体的に書いていただければいいのではないかと思います。

**【久議長】**

虐待防止を、ここでは社会教育としてどう受けていくかという話になりますので、そのあたりは少し整理をしながら文言をうまく当てはめていただければと思います。

今回の改正の1つの柱は、教育委員会だけで閉じなくて、さまざまところで行われている社会教育関連の施策事業とどう連携して、社会教育としてのメニューや事業、施策を充実させていくかだと思います。

こども青少年局のほうでも、さまざまな講座や社会教育的な動きをしていますので、うまく連携すれば、何もかも教育委員会が担っていくということでもなくなります。次の展開を考えると、それぞれの専門部局も社会教育的な観点でいろいろと連携できるようになればいいと思います。

情報提供も兼ねてのお話ですが、尼崎市は、去年がちょうど市制100周年でして、幾つかおもしろい施策をするのですが、その1つに、市民大学があります。どこかに拠点をつくって生涯学習を展開するのではなく、いろいろなものが学びの場になっているので、それを市民大学と呼ぼうというような展開です。

市民大学の商学部というパンフレットがあって、何かというと、店主の方がお客様にいろいろノウハウを教えるというまちゼミのことを商学部というようです。商店街や商工会議所とタイアップしながら展開しています。市民大学というように、同じキャッチフレーズを使うことによって、分かりやすい、あるいは、連携の感じがより増すなど思いました。そういうことも参考にしながら、大阪市でさまざまな部局で展開される社会教育が、大きな同じキャッチフレーズを使うと、尼崎のように非常に分かりやすくなるのではないかなと思います。

いちょうカレッジのコースの中に、他の部局の事業を組み込むだけでも、インパクトとしては違ってくるのかなと思いますので、また今後の展開で考えていただければありがたいなと思います。

#### 【立田委員】

学びの循環と知の循環を生涯学習の基本的な方向性として置いているのは非常に望ましいと思う。そのときに、かかわるといふことまではかなり書かれているんですけど、つくるといふところについて、学習成果を目に見えるものすることについての記述がちょっと足りない気がします。

例えばイベントでも、コーディネーターという資格でも、市民の学習成果がつくるものに変わっていくような、そういった記述をどうしたらいいかなと思います。大阪のNPOは、いろいろなものをつくり出して、発表する場をたくさん提供しています。だから、そ

ういう学習成果発表の場についても、もっと記述を入れていただきたいです。

**【久議長】**

私は市民局で市民活動の支援もさせていただいておりますが、そこでも交流会をしていますし、鶴見区では年に何回か地域活動協議会の運営をされている方々が集って、つるばた会議という情報交換会をしています。実際にいろいろな交流の機会があるので、そこに、生涯学習で学んできた方々がうまく連携できるような、そういう機会をもっとつくっていただくことが必要かと思います。

**【立田委員】**

社会教育の研究の中では、高齢になると、交流したいという親和的欲求が強くなると言われていています。しかし、若いときはもっと何かをつくり出したいという達成欲求が非常に強くて、つながりを求める親和的欲求のみを満足させるのではなくて、達成欲求を満足させる場が必要だと言われていています。

つくり出す場や、つくった学習成果を還元できる場がないと、学びの循環には入っていかないと思います。学習成果の評価には、交流するという成果の発表の方法が1つと、ほかにも資格を取れたり、大会で競技を競ったり、そういう成果の発表の仕方があります。例えばスポーツ競技会やコンテストも、つくり出す場にもつながってくると思います。

**【久議長】**

政策を学んでいる学生たちが、政策形成コンテストを企画して全国的に行っています。それぞれの地域に行って、2泊3日ぐらいで合宿をして地域を読み取って、政策形成をし、発表し、さらに、いい政策はその地域で具体的に受けとめていただけるというようなことをしています。そういったことを、さまざまな部局で増やしていただきますと、学習成果が、もう1歩、2歩、前に行けるんじゃないかと思います。

**【立田委員】**

今のeラーニングは、自分たちでコンテンツをつくり出して、自分たちでそれを広げていくことが多いです。市民たちが自分たちでコンテンツや地域のものをつくり出していくような場を、生涯学習として提供していく必要があると思うので、そのあたりを文章

に入れていただきたいと思います。

#### 【北野委員】

子育ての部門でも、やはり与えてもらうだけでなく、今度は一人一人の保護者が教師のようになって、自分の得意なことや勉強したことを親同士に伝えていくというような、そういう参画であるとか、判断、決定にかかわっていくことがあります。

計画で、3つの段階として書いてくださっている「たがやす」、「かかわる」、「つくる」があります。この「つくる」の内容にかかわるところの文章を変えていただくだけでも、発展の可能性があるので、検討をお願いします。

#### 【久議長】

それぞれの分野ごとの部局が、もっと市民力をうまくお借りをする、そういう門戸を開いていただくということも重要だと思います。

「尼崎市自治のまちづくり条例」の大きな柱の中には、シチズンシップを高めることが取り入れられています。いわゆる、公民意識を高く持ち、そして、自らが地域課題を解決できるような、そういう市民を増やしていきましょうということを、まちづくり条例の中で書いています。

社会教育と、学校教育も含めて、シチズンシップを高めることを、尼崎では徹底的にしましょうということです。ついては、そこで育ってきた人たちの活躍の場を、市役所側あるいは地域側もきちっと受けとめていきましょうという連携を、まちづくり条例で書いております。

生涯学習はもともと、生涯学習推進員さんを中心に、一緒にやろうよという姿勢を見せてくれていましたけど、他部局も、一緒に考え、ともに動き、地域課題を解決するというようなことをどんどん増やしていただくということが必要かなと思います。

#### 【久議長】

今までは、各専門部署が地域とどう連携していくかという話が多かったんですけども、今後は、地活協もできましたし、まずは区役所が地域の総合的な支援をして、それを専門部署につなげるというようになっていけば、その中で、生涯学習からは、どのような支援ができるのかという話になっていくと思います。24区、もっと言えば、小学校区ごと

に状況や課題が違いますので、そこを現場からやっていくと、いわゆる地域性に基づいて施策、事業のめり張りが出てくるかと思います。

あと、周知用のパンフレットなどについてですが、まちづくりや生涯学習という言葉を出せば出すほど、「いや、私には関係ないんや」という話になってしまうので、どうやって、違う言葉、もっと身近なことと捉えていただくような言葉遣いをしながらパンフレットをつくっていただくかということがポイントだと思います。

尼崎は、最近非常にそういうパンフレットづくりがうまくなってこられて、「でばんですよ！」というタイトルのパンフレットをつくっています。まちづくりというのは、あなたが、自分の地域で活躍する出番をつくることなんですよということです。そういう乗りで、まちづくりとかを使わずに、シチズンシップというのを表に出さずに、いかに内容をお伝えできるかという工夫をされておられました。

なぜその話をしているかということ、今までの行政の概要版パンフレットというのは、計画を縮小したものが多いいと思います。そうではなくて、少し乗りを大きく変えて、計画を読んでいただく入り口ということで、概要はあまり言わないことも一つかもしれません。あなたの周りでこういうことが起こっていますよね、それをやるためには生涯学習なんですよ、ついては、生涯学習大阪計画というのをつくりましたから、ちょっと読んでみませんかというような、そういう入り口を1歩記していただけるようなパンフレットもあってもいいのかなど、尼崎の事例を見て思いました。尼崎は今、総合計画をつくっても、何をつくっても、その内容にほとんど触れずにパンフレットを出していくということしていますので、そういうこともちょっと参考にさせていただきながら、「生涯学習推進大阪計画とは」というパンフレットにならないような、そういうおもしろいパンフレットも、一部つくっていただければうれしいなと思います。

#### 【久議長】

私は和泉市の教育委員会の施策評価をここ数年していますが、各施策を、簡単なA4、1枚で、PDCAという、上からP、D、C、Aとなるような、そういうシートを書いていただいて、我々委員と意見交換をさせていただいているんですね。非常に簡便なやり方なんですけれども、毎年意見交換をさせていただく中で、評価の意識づけというのでは非常にうまくいっているというふうに思いますので、あまり手間のかからない評価のやり方

というのもまた考えていただければと思います。

実際に大学も、評価せよとずっと言われ続けるようになりまして、私たちも評価疲れをしてしまうということが起こりつつありますので、できるだけ評価をしているほうも達成感があるような、そういう評価をうまくしていただくとうれしいと思います。

計画はつくって終わりではなくて、これがスタートで、ここからいろいろと展開をしていただければなと思っております。

いちょうカレッジも、かなりここ数年でメニューも充実をしてきておりますので、具体的なノウハウ、スキルを勉強しながら、さらにそれを生かせるスキルまで高めていただけるような、そんなコースをより充実させていただくと、すぐに地域貢献ができるような人材になっていくのではないかと思います。成果発表会も、各地活協の方々等にも見に来ていただいて、つながりをつくっていただくと、先ほどの学びの連携というのもできてくるんじゃないかなと思っています。先ほど尼崎でシチズンシップ教育という話をしましたけれども、いちょうカレッジも最近、かなりシチズンシップ教育的なメニューも増えておりますので、ちょっと言い方を変えれば、よりインパクトのある訴え方もできるのではと思っています。

—